

関係者各位

平成 27 年 8 月 吉日
主催 宮崎大規模災害リハビリテーション推進協議会（宮崎 JRAT）
代表 河野 寛一

「第 1 回 宮崎大規模災害 リハビリテーション推進研修会」

時下、皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、近年、大規模災害が多発的に発生しております。支援活動は救命救助のみならず、それに引き続くリハビリテーションによる生活支援等が非常に重要であることが大規模災害発生後に浮き彫りになりました。このため、日本において大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）が2011年4月に結成されました。宮崎県においても、適時適切に支援活動に参加できるような素地づくり（ネットワーク構築、研修会実施、教育・啓発など）を行うために、宮崎大規模災害リハビリテーション推進協議会が結成されました。

今回、災害リハビリテーションの啓蒙活動に繋げたく、下記の通り研修会を開催しますので、是非ともご参加は願ひ致します。

テーマ：大規模災害時のリハビリテーションについて～宮崎県の取り組みを考える～

- ◆日程 平成 27 年 9 月 4 日（金）
- ◆時間 19:00～20:30（受付開始 18:30～）
- ◆場所 宮崎県医師会館 2F 大研修室 宮崎県宮崎市和知川原 1 丁目 1 0 1
- ◆内容 1)開会（19:00）
2)講演
「宮崎県における DMAT 並びに災害医療コーディネーターについて」
宮崎大学医学部病態解析医学講座 救急・災害医学分野 教授
医学部附属病院救命救急センター長 落合 秀信（医師）
3)大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）について
4)座談会「多職種で考えよう～現状と今後の展望～」
医師：鈴木 幹次郎（日南市立中部病院）
その他関連職種
5)閉会(20:30)
- ◆参加費:無料（事前申し込みを別紙にて FAX またはメールにてお願い致します。）
- ◆参加対象者:介護支援専門員、医療・介護関係従事者、行政関係者等
- ◆名義講演：宮崎県 公益社団法人宮崎県医師会 一般社団法人宮崎県理学療法士会
一般社団法人宮崎県作業療法士会 宮崎県言語聴覚士会
公益社団法人 宮崎県看護協会 一般社団法人 宮崎県介護支援専門員協会

問い合わせ先 日南市立中部病院

担当者：山下 達也

FAX：0987-27-2479

メール：tatuya08691103@yahoo.co.jp

第1回 宮崎大規模災害リハビリテーション推進研修会 報告

【宮崎大規模災害リハビリテーション推進協議会の趣旨】

宮崎県においても南海トラフ巨大地震の想定のもとに、宮崎県および各自治体で様々な防災対策が検討されており、災害医療においても宮崎県 DMAT が組織されております。被災混乱期(発災～72 時間)の後の、応急修復期(4 日目～1 カ月末)、復旧期(2 カ月目～6 カ月)、そして復興期(6 カ月以降)においては、医療、リハビリ、介護、生活支援を担うチームが必要です。それらの適切な体制を構築するために、宮崎 JRAT が各関係機関と連携しながら積極的に活動していきたいと考えます。なお、宮崎 JRAT は、宮崎 DMAT に引き続く活動を想定しております。

【宮崎JRATの今後の活動予定】

全国JRATの指針に基づき、以下の項目について活動を行う予定です。

- (1) 災害リハビリテーション支援チームの育成・組織化、連携マニュアルの作成
- (2) 災害リハビリテーションに関する教育・啓発のための研修および広報
- (3) 災害支援必要機材の準備
- (4) 行政(宮崎県、各市町村)との密接な連携、他の災害救助チームとの連携
- (5) 発災時、組織的かつ直接的な災害リハビリテーション支援
- (6) その他必要な活動

【支援】

本会は、宮崎県理学療法士会、宮崎県作業療法士会、宮崎県言語聴覚士会、宮崎県介護支援専門員協会の支援を受けております。

【研修会を終えて】

第1回目の研修会としては、参加人数も80名を超え、ご協力いただいた各団体に感謝申し上げます。まだまだ課題も多く、ご協力いただく点多々あると思いますが、継続していく事、啓発していく事の重要性を感じた研修会でした。

【今後の課題】

今後の課題は、予算の確保及び「宮崎JRATの今後の活動予定」をどう準備し、具体化するのかと考えます。

宮崎大規模災害リハビリテーション推進協議会規約

【名称】

第1条 本会は「宮崎大規模災害リハビリテーション推進協議会」と称する。

【目的】

第2条 宮崎県内の災害時におけるリハビリテーション医療の向上に寄与することを目的とする。

【資格(対象)】

第3条 本会の資格者は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護支援専門員その他宮崎県内で医療・福祉に携わる全ての職種とする。

【事務局】

第4条 本会は事務局を日南市立中部病院(宮崎県日南市大堂津五丁目10番1号)に置く。

【活動】

第5条 本会は前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1) 災害リハビリテーション支援チームの育成・組織化
- (2) 災害リハビリテーションに関する教育・啓発のための研修および広報
- (3) 災害支援必要機材の準備
- (4) 他の災害救助チームとの連携
- (5) 発災時、組織的かつ直接的な災害リハビリテーション支援
- (6) その他、目的を達成することに関連した活動

【役員の設置】

第6条 本会は、活動を円滑に運営するために、必要な役員や組織を置く。

- (1) 本会は、次の役員を置く。幹事 7名以上 15名以内。その他に委員を数名置く。
- (2) 幹事のうち、1名を委員長、1名を副委員長、1名を事務局長とする。
- (3) 前項の委員長および副委員長は、幹事による互選で選出する
- (4) 本会は、会の活動(企画運営)を実行するために委員会を設置し、事業の推進を図る事ができる。

【幹事会】

第7条

- (1) 幹事会は年1回以上開催する。
- (2) 幹事会は、委員長がこれを招集する。
- (3) 委員長が都合により業務遂行不可能の場合は、副委員長がこれを代行する。
- (4) 幹事会での決議は出席委員3分の2以上の賛成を得なければならない。

【資産の構成】

第8条 本会の資産は、次の各号をもって構成する。

- (1) 各団体からの寄付金・研修会費、この会の事業を賛助しようとする団体および個人からの寄付金。
- (2) その他の収入

【資産の管理】

第9条 本会の資産は、委員長がこれを管理し、その方法は幹事会の決議による。

【規約の変更】

第10条 本規約の変更は、幹事会の承認を得るものとする。

【附則】

- 1 本会則は平成27年8月26日から適用する。
- 2 本会の事業年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第一回宮崎大規模災害リハビリテーション推進研修会
アンケート報告

H27.10.14

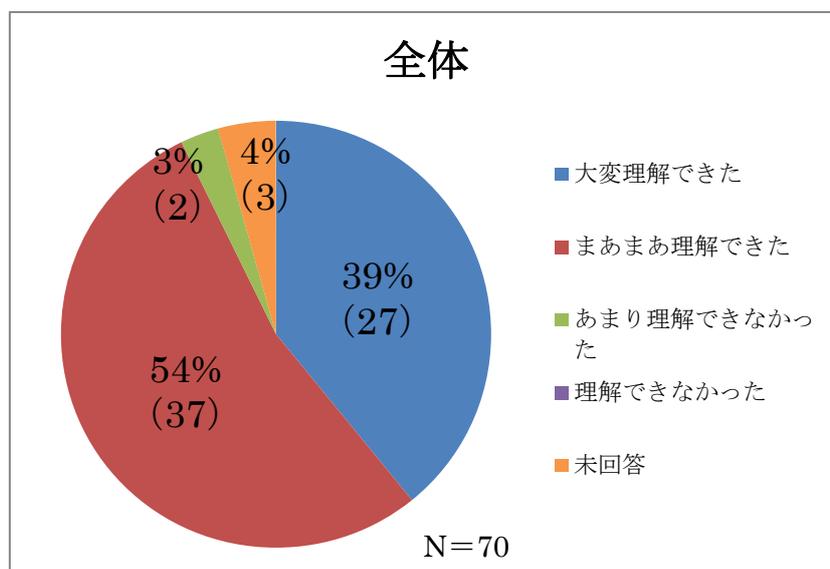
I. アンケート回収率

① アンケート回収率：84% (70/83)

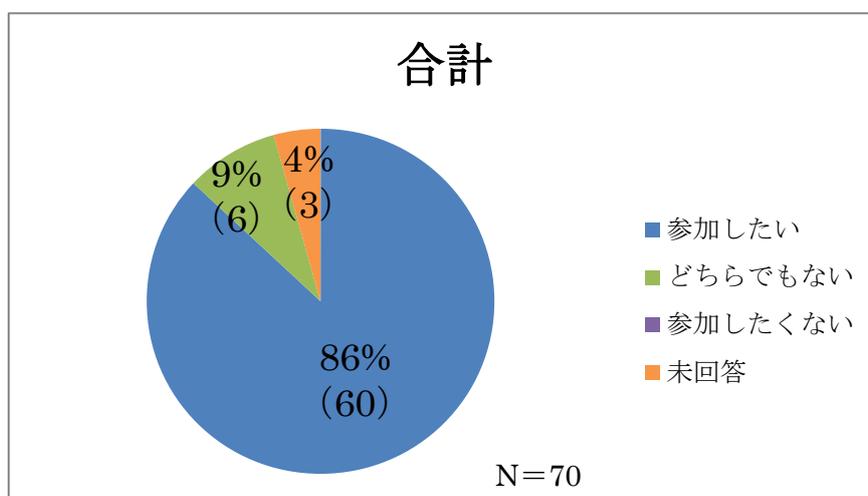
II. アンケート結果

② 全体

Q. 「大規模災害リハビリテーション」についてご理解は深まりましたか？

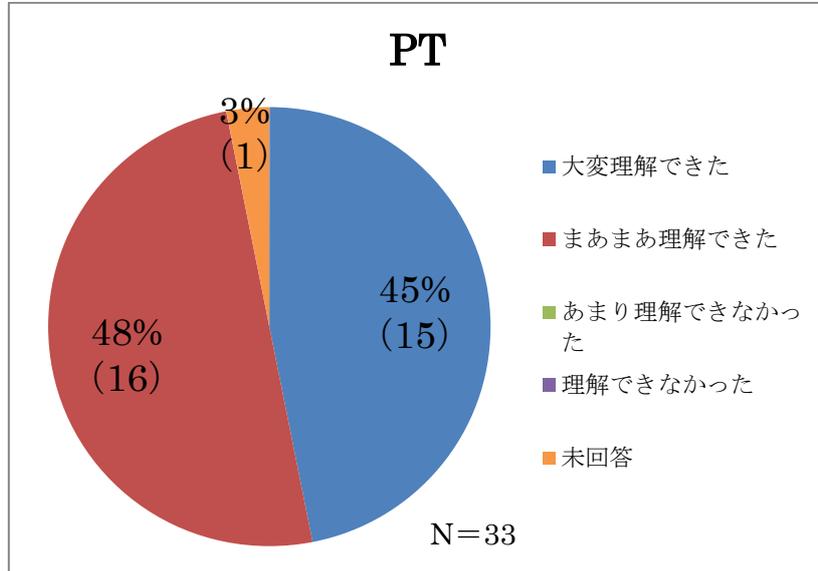


Q. 「大規模災害リハビリテーション」に関する研修会協議に参加したいと思いませんか

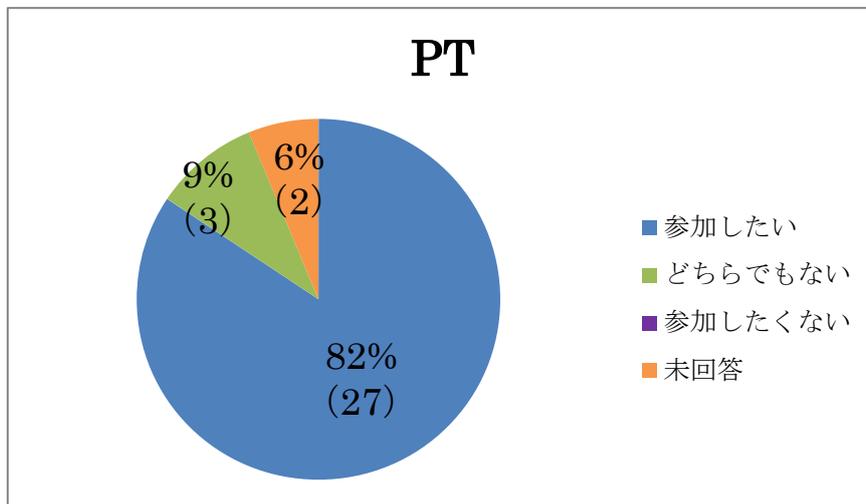


③ PT

Q. 「大規模災害リハビリテーション」についてご理解は深まりましたか？



Q. 「大規模災害リハビリテーション」に関する研修会、協議に参加したいと思いませんか



Q. 研修内容で特に印象に残っている点はなんですか？

- JRAT を含めて、災害医療のシステムが整備されているとのこと
- JRAT の活動内容
- 宮崎 JRAT について
- 東日本大震災の活動報告
- 震災時のリハ支援チームの活動内容。自分はこの頃、まだ学生だったので、リハチームがどのような活動をしていたか知らなかったが、実際の活動内容を知ることができた。
- 亜急性期以降に関わるリハビリテーションの役割
- 災害後に対しての廃用予防の重要性・必要性が印象に残りました。災害地での PT の目線の広さが大切であり、気付くということの重要がわかりました。
- JRAT の必要性について
- 内容はもとより、実際被災地に行かれたスタッフの資料などが強いインパクトでした。実際私が出来ることがあるのだろうかと考えさせられる内容でした。
- 現場の写真か現場での生の体験談
- 指揮の連携システムの重要性と指導方法の確立が重点となる。
- リハビリテーションの重要性を再確認できた。
- 現場の生の声が印象的であった。
- 中越や東日本での DVT 発生率の高さとそれを予防するために生活不活発病と併せて PT として貢献できるか
- ADL 低下・ロコモティブシンドローム・廃用症候群に対して物資のない状況でリハビリを考える。考えなければならない。柔軟の視点を
- 被災者だけでなく、援助側への心のサポートの必要性を感じた。
- 現場の経験が非常に大事ということがわかった。
- 実際に参加された方の声・経験を聞いて良かった。
- PT として災害現場（避難所）を見たときの問題点。リハビリチームの必要性
- JRAT の概要の説明が印象に残りました。
- 実際に現場に行かれた方の報告が印象に残りました。情報を伝えみんなでアセスメントし改善していくことが大切と思いました。
- 写真全般
- 災害地に出向く事だけが全てではないということがよくわかりました。地域連携を普段から強めることが災害時に活かせるという事で個人一人一人が出来ることだと感じました。

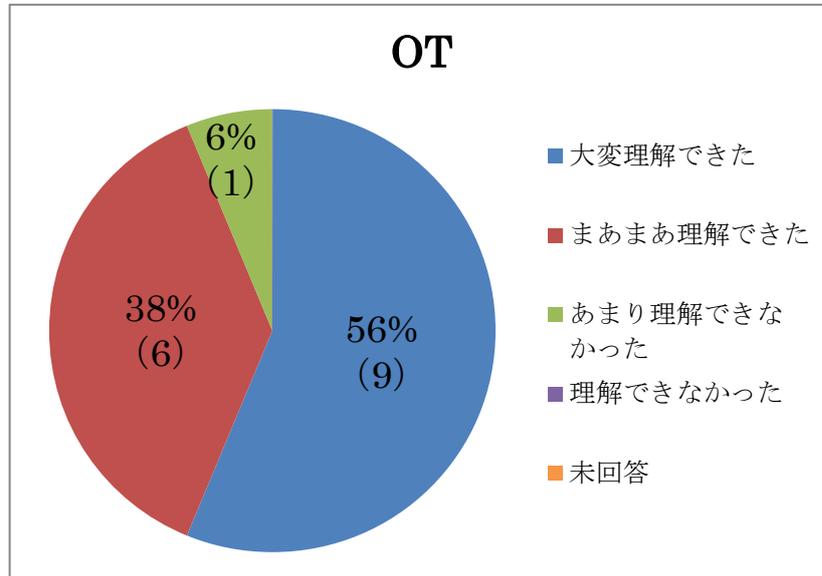
- 実際に行かれた先生方の「行ってから気づいたこと」について印象に残りました。今後もし行くことに備えて、セラピストとしての視点で見れるよう、日頃から意識していこうと考えさせられました。
- 被災地での体験談が印象に残りました。
- DMAT/JRAT の組織・活動について理解を深めることができた。
- DMAT→JMAT DRAT→JRAT→CBRT について
- 処方の問題は印象的でした。
- 災害医療における、リハビリテーションの重要性と生活環境について。被災地域での食事の悪さ
- 災害医療と救急医療の違いについて/リハ関連職が関わる分野/避難場所の現状

Q. ご意見・ご感想ありましたら、ご自由にお書きください

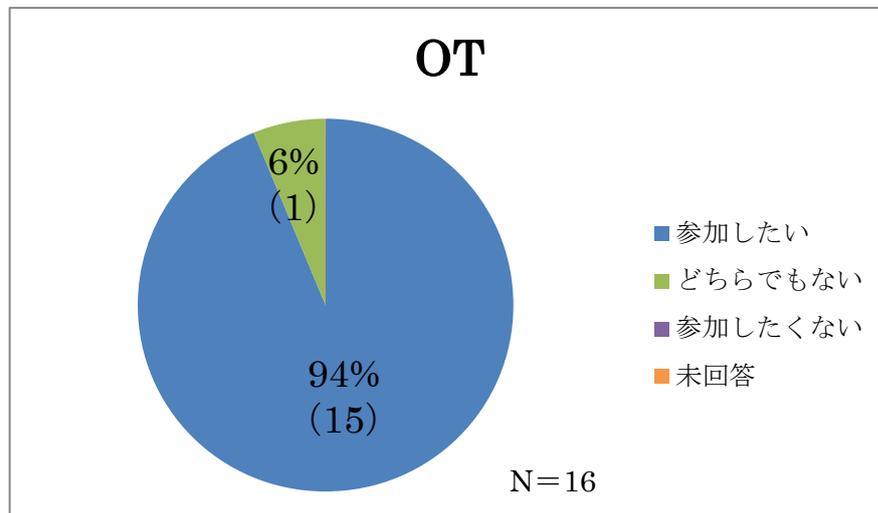
- 災害医療の中で、リハビリテーション職種が出来ることをもっと教えて欲しい。広めて欲しい
- 定期でいろんな意見を出し合う場をお願いいたします。
- 資料が少ないように感じました。
- もっと多くの方が参加できたらと思います。
- 具体的なイメージを持つことができました。大変勉強になりました。
- 専門職になった以上、何かをしなければならないと思いました。
- 今回、実際被災地に行かれた先生方のお話でしたが、今後自分が被災者・被災地になった場合どうなるんだろう… ボランティアの立場と被災者との立場のスタッフの心が複雑な気持ちとなりました。
- 宮崎 JRAT について今後どのような活動を行っていくのか進めていくのかを知りたい。今後も宮崎 JRAT の研修会にはぜひ参加したいと思います。

④ OT

Q. 「大規模災害リハビリテーション」についてご理解は深まりましたか？



Q. 「大規模災害リハビリテーション」に関する研修会、協議に参加したいと思いますか



Q. 研修内容で特に印象に残っている点はなんですか？

- 災害が起きた時のチームでの取り組みについて。その後のリハビリテーションの重要性について。
- 避難所の不潔さ。高齢者の廃用症候群
- 実際に行かれた先生方の話が印象に残った。大変な環境での支援が必要になってくることが分かり考えさせられました。
- まだ、災害時のリハビリテーションのイメージがつきません。できれば、事例などの紹介を各職種（PT/OT/ST）で何をしたら教えていただければありがたいです。
- 連携、専門職の視点を活かす。
- 南海トラフ地震が半世紀以内に起こる可能性。災害フェーズと詳細。地域でのつながりの大切さが印象に残りました。
- 被災地での実際の活動
- Dr・Ns・PT・OT・ST から見た様々な支援。連携することの大切さ。
- 宮崎県内においての、DMAT 及び JRAT の必要性を痛感しました。各セラピストまた国民が熟知すべき講演内容だったかと思います。今後、DMAT を始め JRAT がスムーズに機能するよう協力体制が図られたらと思います。
- リハの必要性の高さ。援助の難しさ。
- リハ職が亜急性期において関与できていないこと。
- 現在でもリハビリテーション専門職が介入しているとは言え、絶対的に人数など足りていないということ。
- 災害における実際のリハビリの報告内容が具体的であり、実際にはどうすべきか(OTとして) 考える必要があると思いました。
- 実際の災害時の支援チームの活動内容をスライドに交えて説明していただいたことが自分自身が災害時にどのような事ができるかを考えさせられました。

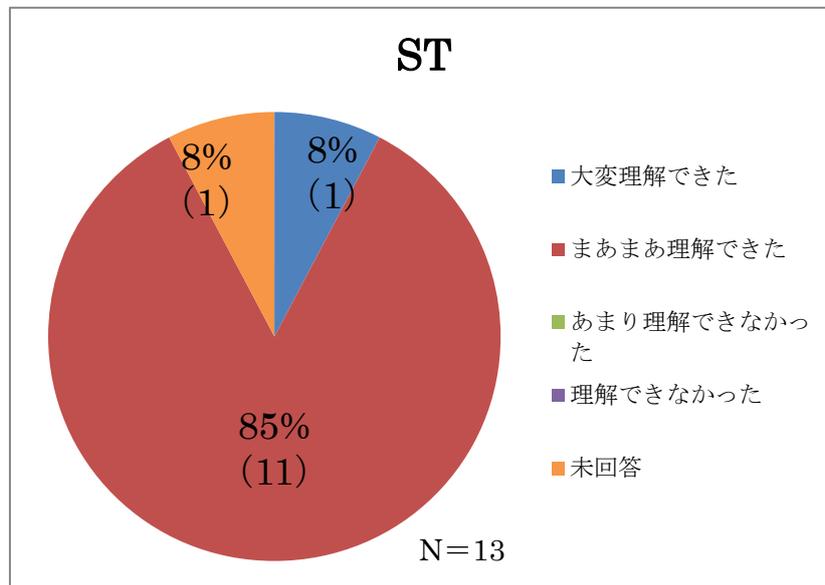
- どういった組織体制になっているのか、またその連携の難しさ
- 各先生方の公演が大変わかりやすい内容で、終始集中して聞くことができました。もっと内容・中身の理解を深めていきたいと思います。

Q. ご意見・ご感想ありましたら、ご自由にお書きください

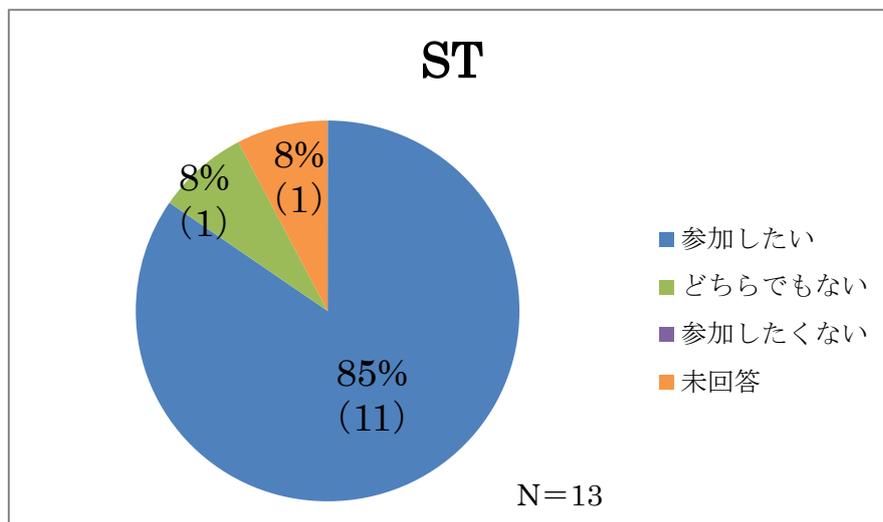
- 活動の重要性を感じた。そしてその責任の重さが伝わった。協力したい気持ちと怖さの葛藤が生じた。
- 大変勉強になりました。今後、日常だけでなく非日常のことも考えながら支援・リハを行っていきたいと思います。
- 災害救助（自衛隊）との関わりを持つことがあります。まだ JRAT の存在は知られていない状況なので、もっと発信していくべきだと思いました。
- まだ1年目で知識・技術ともに未熟な点が多いですが、このような研修に参加して災害時の救助にも参加したいと思った。
- リハ職が今後、JRAT として関与・チームとして関わるための研修会の参加や隊員としての参加はどのようにしたらよいか
- JRAT の活動を詳細にお願いします。
- 職場を含め様々な協力体制が必要だと考えます。
- 他職種の視点から話を聞くことができとても勉強になりました。平日の仕事帰りで余裕が無い。タイムスケジュールがされていなくてせつかくの話がカットされるなどや残念であった。

⑤ ST

Q. 「大規模災害リハビリテーション」についてご理解は深まりましたか？



Q. 「大規模災害リハビリテーション」に関する研修会、協議に参加したいと思いますか



Q. 研修内容で特に印象に残っている点はなんですか？

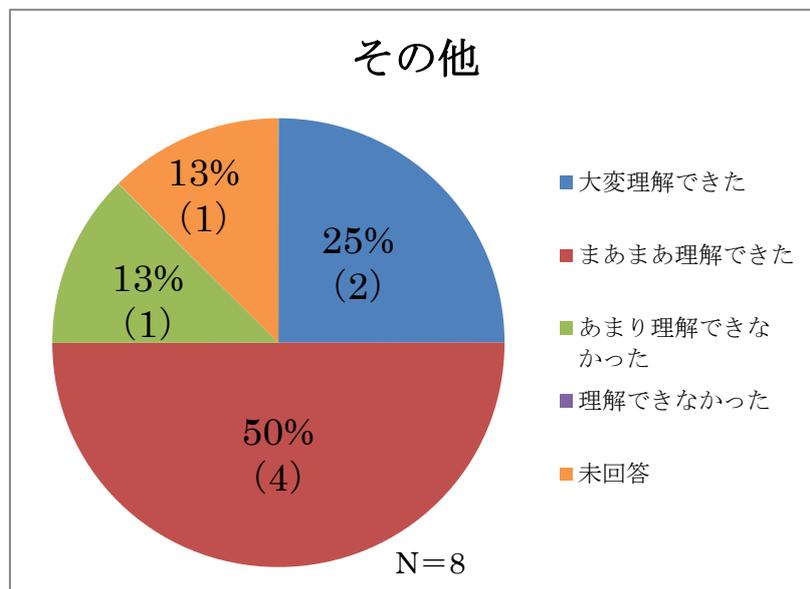
- 超急性期ではなく、亜急性期のサポートが必要になる点（リハビリとして）
- 実際の現場に行った方の話で何が問題だったのかという事がよくわかりました。被災者に対する対応の難しさが多少なりとも理解できました。
- 現場の写真や現場での生の体験談
- 実際の被災地での様子
- 大災害支援を体験された方の話で具体的なイメージが得られた貴重な時間でした。必要とされるチーム数の多さには驚きました。人材を有効に生かすためにも機動性を持ったチームのシステム構築の必要性を感じました。
- 避難所の様子はテレビニュース映像で見ることがあったが状態を知ることはなかった。今回はそれが知ることができて良かった。写真を見ながら ST としての必要性を大変感じた。
- DMAT・JRAT 各協会それぞれから派遣されたチームが効果的に動くことが困難である点
- これから作らなければならないものの多さ
- 避難所は実際、衛生状態が不良
- 環境整備が重要なこと（プライバシーを守るためのダンボール作りなど）
- 被災地での各職種の活動を知り、私ならなにが出来るか考える機会になりました。現地での活動内容や現状を学ぶことができ大変良かったです。

Q. ご意見・ご感想ありましたら、ご自由にお書きください

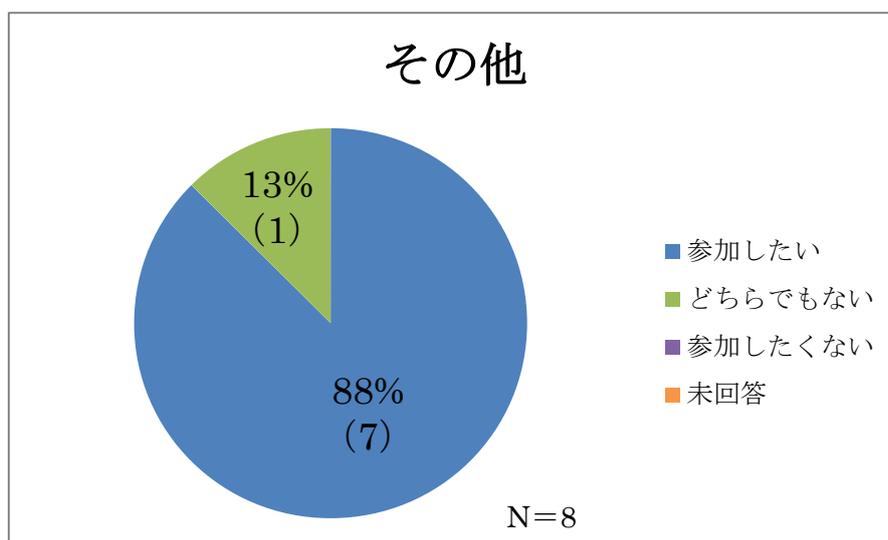
- 嚥下食や乳幼児食を扱う業者さんのご協力いただける体制があるといいなと思いました（協定）
- JRAT の下に専門性ごとの
- 言語聴覚士が実際の場で行ったことを知りたいです。
- DMAT・JRAT の活動を学ぶために各地域での研修会を行って欲しい
- ST として何が出来るか？知っておくべき知識という研修があればぜひ参加したいです。
- セラピストが動く際は職場の協力が必要ですが、時にそれが得られない状況があると聞きます。医師会・区市町村に対する働きなども必要かと思えます。ので今後の研修会で報告いただきたいです。

⑥ その他

Q. 「大規模災害リハビリテーション」についてご理解は深まりましたか？



Q. 「大規模災害リハビリテーション」に関する研修会、協議に参加したいと思いますか



Q. 研修内容で特に印象に残っている点はなんですか？

- 万が一の時に自分が何ができるか何をすべきかとても不安になりました。体制の整備が必要と感じました。(Dr)
- 災害時の「リハビリテーション関連職に期待される役割」について具体的内容(学生)
- 災害時の活動について(学生)
- 私は福祉職員ですが、これまで施設利用の事しか眼中になかったが、今回の研修で対象は一般の人々であり、医療従事者は一般の人で手一杯でとても施設までは手が回らないと感じました。(介護施設職員)

Q. ご意見・ご感想ありましたら、ご自由にお書きください

- 閉会は、20:30では？時間を割いて研修会を開いて下さって大変ありがたい気持ちはありますが参加者も時間を割いて参加しているのです。多少のズレならまだしも...今回は非常に残念
- 歯科医師会・歯科衛生士会・歯科技工士会もリハビリテーション分野に協力できる分野もあると思います。口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防は災害関連死の防止(歯科医)
- 貴重なご講演に参加させていただき御礼申し上げます。学生時代に目指す職種の期待される役割を伺えたことは今後の自己啓発などにも活かせると思いました。より広い視野を持てるようになりました。(学生)
- 将来、災害時に活躍できるPTを目指そうと思いましたが(学生)